



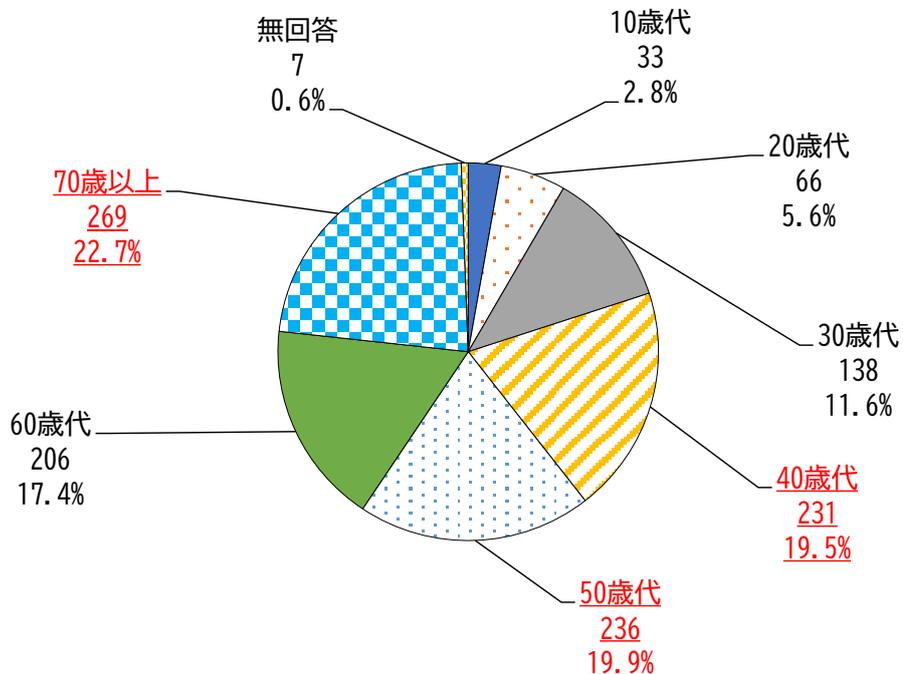
|  |    |
|--|----|
| 2 アンケート調査の結果・分析 .....                  | 3  |
| (1) 守谷市内の市民（16歳以上の市内在住者） .....         | 3  |
| ①回答者の属性 .....                          | 3  |
| ②環境問題の関心度 .....                        | 4  |
| ③関心のある環境問題 .....                       | 5  |
| ④市の環境を良くするための市民の取組 .....               | 6  |
| ⑤市の環境を良くするために行われる地域活動や環境事業への参加意向 ..... | 7  |
| ⑥第2次守谷市環境基本計画の認知度 .....                | 8  |
| ⑦ゼロカーボンシティの表明の認知度 .....                | 8  |
| (2) 守谷市内の事業者（守谷市商工会に所属する企業） .....      | 9  |
| ①回答者の属性 .....                          | 9  |
| ②環境問題の関心度 .....                        | 10 |
| ③環境の保全や改善に向けた取組 .....                  | 10 |
| ④環境への負担を減らすための努力や工夫 .....              | 11 |
| ⑤環境保全等の取組への障害 .....                    | 11 |
| ⑥地域活動や環境事業への参加 .....                   | 12 |
| ⑦重要だと思う制度や支援 .....                     | 13 |
| ⑧第2次守谷市環境基本計画の認知度 .....                | 14 |
| ⑨ゼロカーボンシティの表明の認知度 .....                | 14 |
| (3) 守谷市内の中学生（市内の4中学校、2年生の1クラス） .....   | 15 |
| ①環境問題の関心度 .....                        | 15 |
| ②環境問題の情報を得る方法 .....                    | 15 |
| ③関心のある環境問題 .....                       | 16 |
| ④学びたい環境項目 .....                        | 16 |
| ⑤将来のまちの姿 .....                         | 17 |
| ⑥学校での取組内容 .....                        | 17 |

## 2 アンケート調査の結果・分析

### (1) 守谷市内の市民（16歳以上の市内在住者）

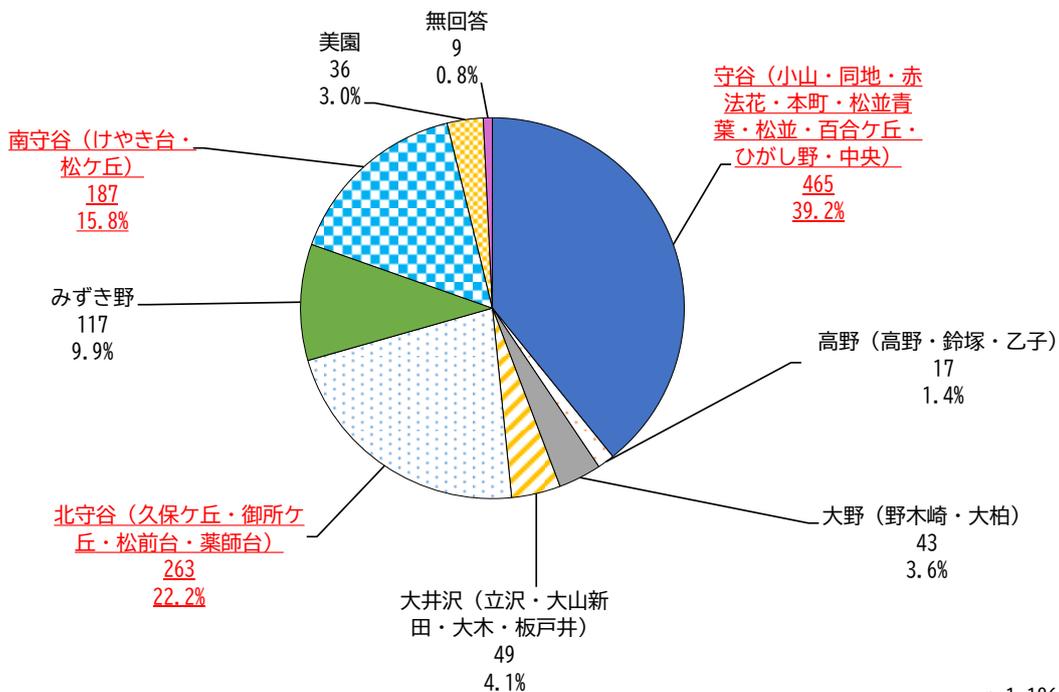
#### ①回答者の属性

##### a. 年齢



n=1,186

##### b. 居住地区



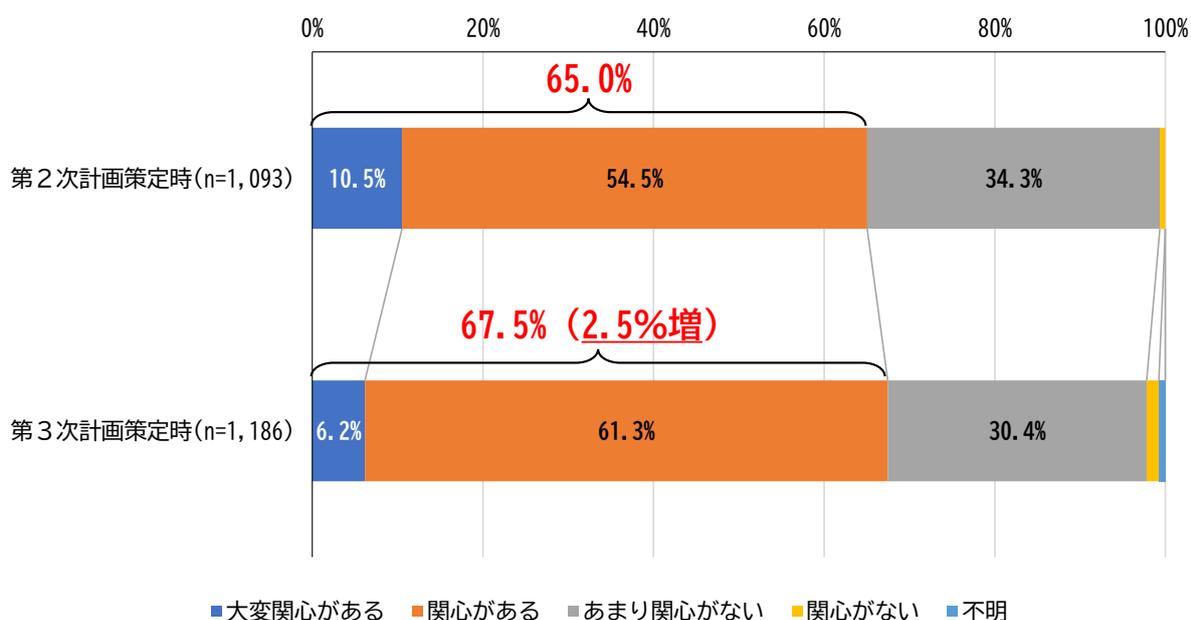
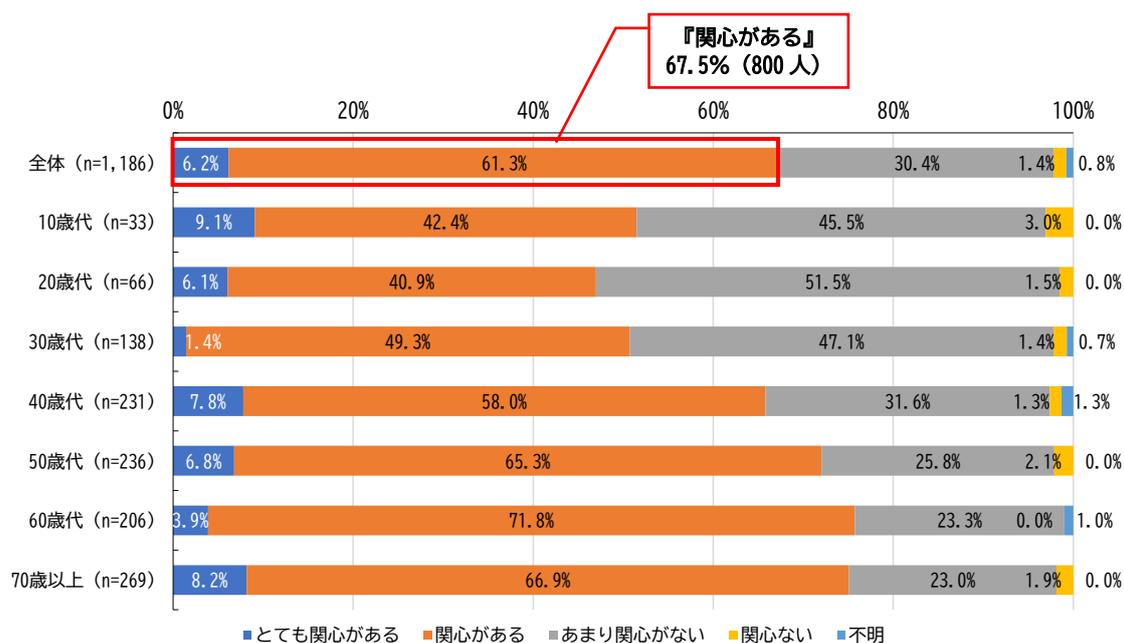
n=1,186

## ②環境問題の関心度

環境問題に関心があるか聞いたところ、「関心がある」が61.3%で最も多く、次に「あまり関心がないが、自分の生活にも関係する問題であることには気づいている」が30.4%、「とても関心があり、自分から積極的に情報収集や勉強をしている」が6.2%となっています。

「とても関心がある」と「関心がある」を合計したものを『関心がある』としてみると、年齢別では60歳代で75.7%が最も多くなっており、年齢が高くなるほど環境問題への関心が高くなる傾向となっています。

第2次環境基本計画策定時に行ったアンケート調査結果と比較すると、『関心がある』と回答した割合は2.5%増加しています。



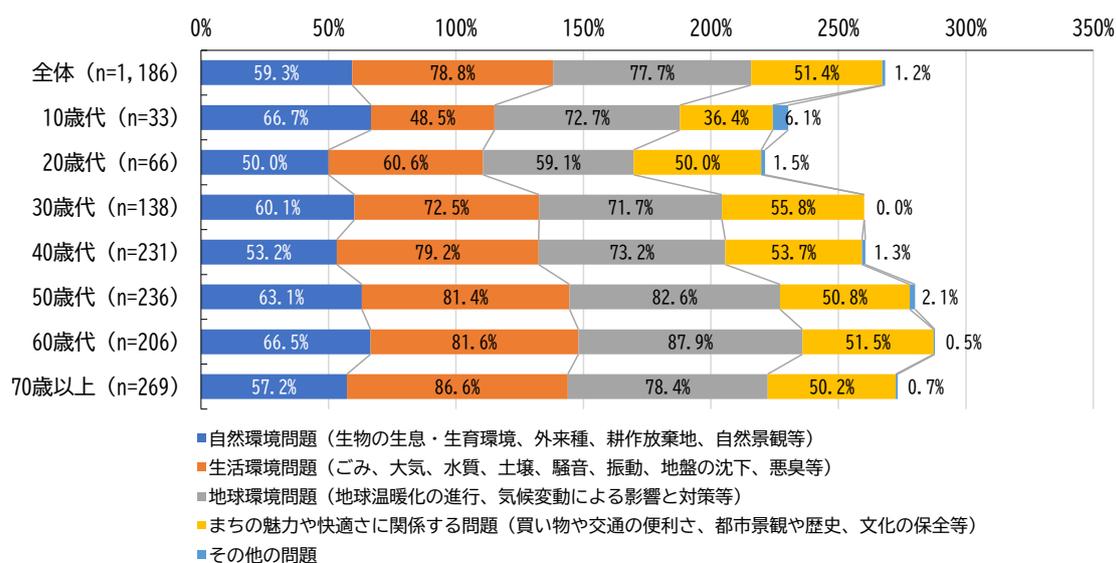
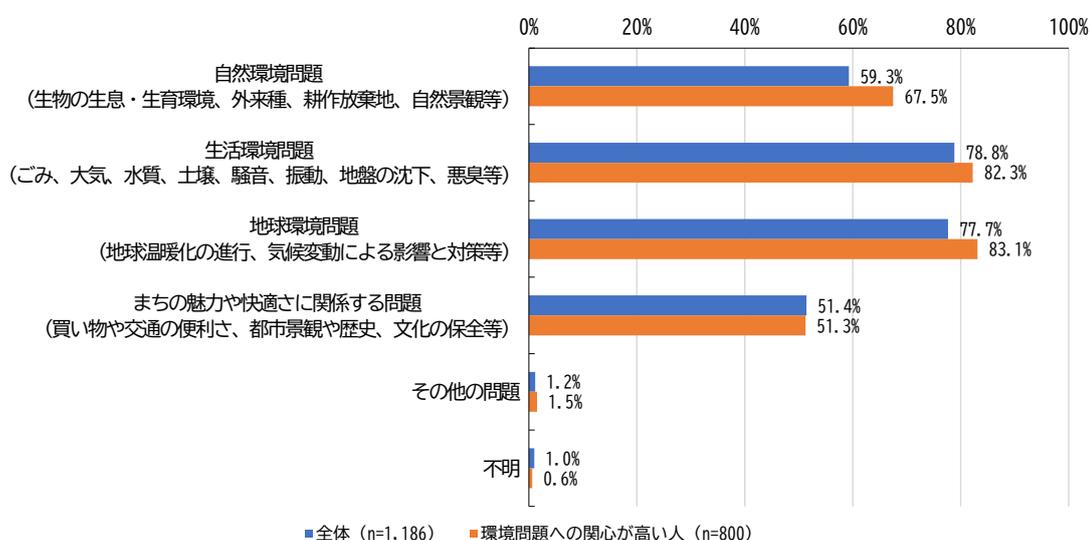
### ③関心のある環境問題

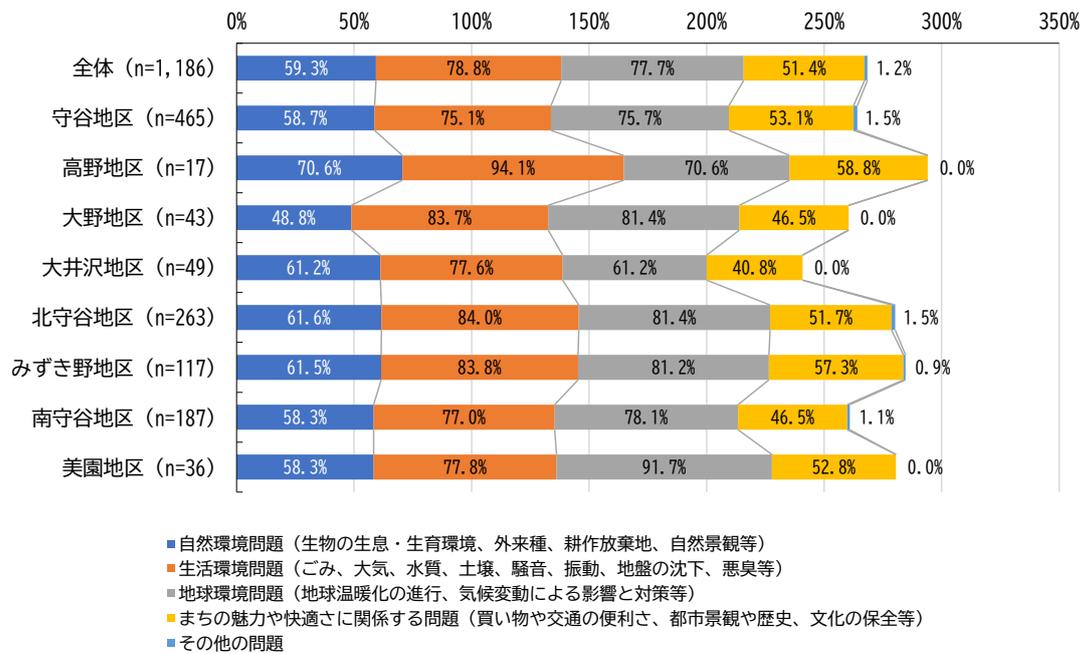
どのような環境問題に関心があるか聞いたところ、「生活環境問題（ごみ、大気、水質、土壌、騒音、振動、地盤の沈下、悪臭等）」が78.8%で最も多く、次に「地球環境問題（地球温暖化の進行、気候変動による影響と対策等）」が77.7%、「自然環境問題（生物の生息・生育環境、外来種、耕作放棄地、自然景観等）」が59.3%となっています。

環境問題への関心が高い人（P.4『関心がある』に該当する800人）と全体を比較すると、自然環境問題、生活環境問題、地球環境問題の3項目で全体よりも高くなっていますが、まちの魅力や快適さに関する問題については若干低くなっています。

年齢別にみると、自然環境問題は10歳代、生活環境問題は70歳以上、地球環境問題は60歳代、まちの魅力や快適さに関する問題は30歳代がそれぞれ最も高くなっています。

地区別にみると、高野地区では自然環境問題、生活環境問題に関する環境問題への関心が高い傾向にあります。

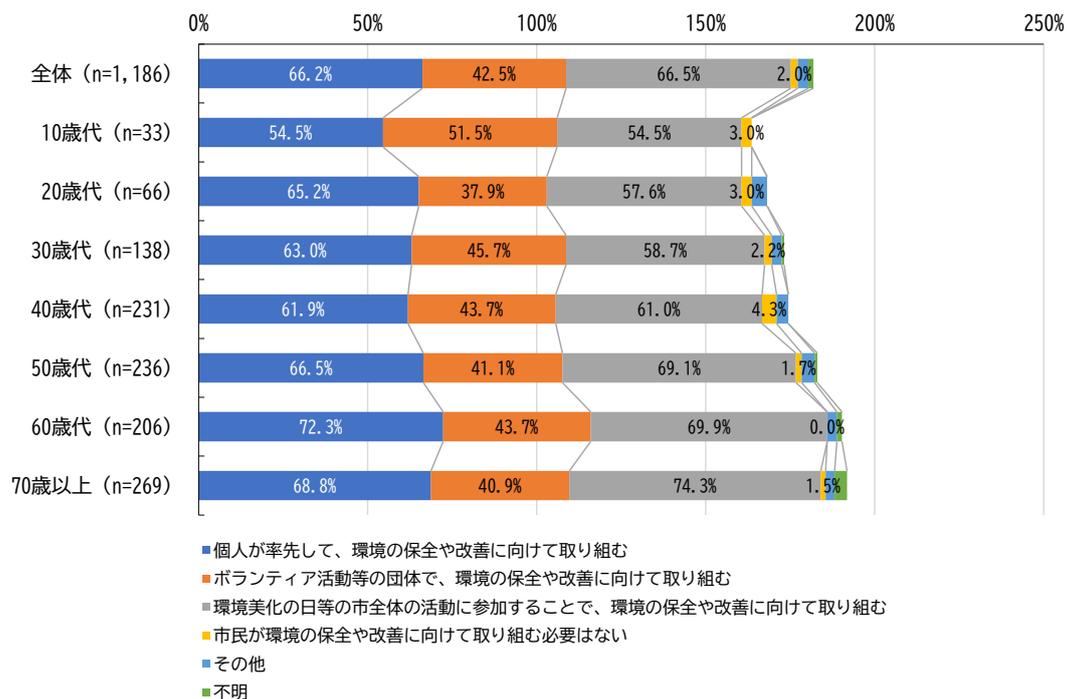




#### ④市の環境を良くするための市民の取組

守谷市の環境を良くするために、市民はどのような方法で取り組むことが重要かを聞いたところ、「環境美化の日等の市全体の活動に参加することで、環境の保全や改善に向けて取り組む」が66.5%で最も多く、次に「個人が率先して、環境の保全や改善に向けて取り組む」が66.2%、「ボランティア活動等の団体で、環境の保全や改善に向けて取り組む」が42.5%となっています。

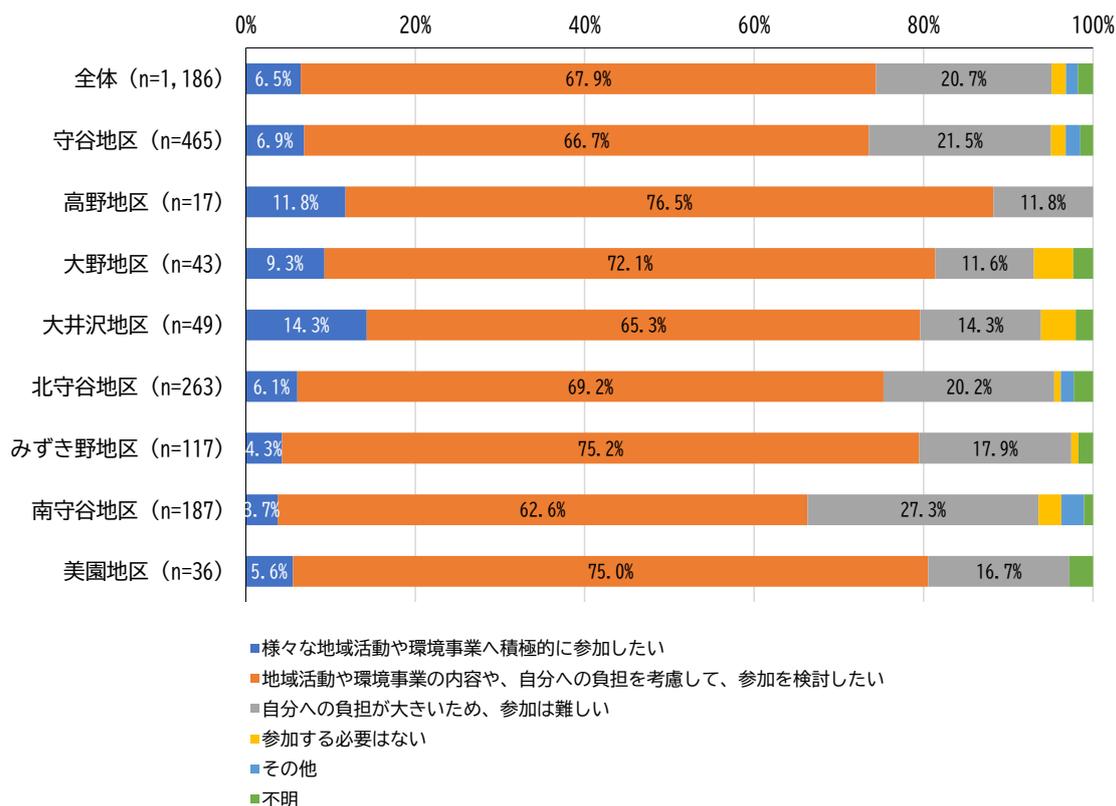
年齢別にみると、「個人が率先して、環境の保全や改善に向けて取り組む」及び「環境美化の日等の市全体の活動に参加することで、環境の保全や改善に向けて取り組む」は年齢が高くなるにしたがって割合も高くなり、それぞれ60歳代では72.3%、70歳代では74.3%となっています。「ボランティア活動等の団体で、環境の保全や改善に向けて取り組む」は10歳代の割合が他世代と比較して突出して高くなっています。



### ⑤市の環境を良くするために行われる地域活動や環境事業への参加意向

守谷市の環境を良くするための地域活動や環境事業への参加意思を聞いたところ、「地域活動や環境事業の内容や、自分への負担を考慮して、参加を検討したい」が67.9%で最も多く、次に「自分への負担が大きいため、参加は難しい」が20.7%、「様々な地域活動や環境事業へ積極的に参加したい」が6.5%となっています。

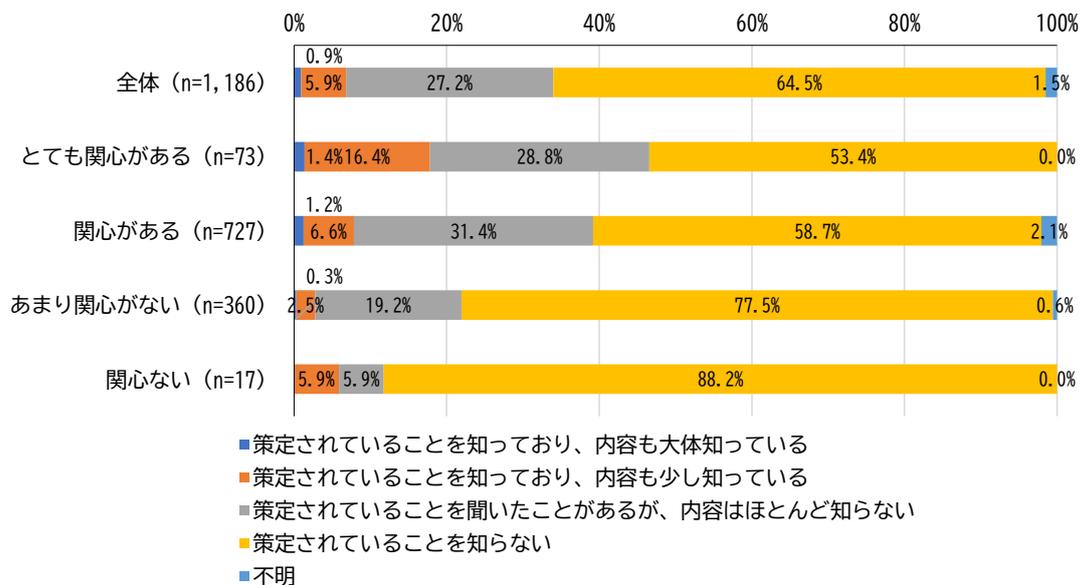
地域別にみると、全ての地区で参加意向は6割以上となっていますが、守谷地区や北守谷地区、南守谷地区では「自分への負担が大きいため、参加は難しい」が全体よりも高くなっています。



## ⑥第2次守谷市環境基本計画の認知度

第2次守谷市環境基本計画を知っているかを聞いたところ、「策定されていることを知らない」が64.5%で最も多く、次に「策定されていることを聞いたことがあるが、内容はほとんど知らない」が27.2%、「策定されていることを知っており、内容も少し知っている」が5.9%となっています。

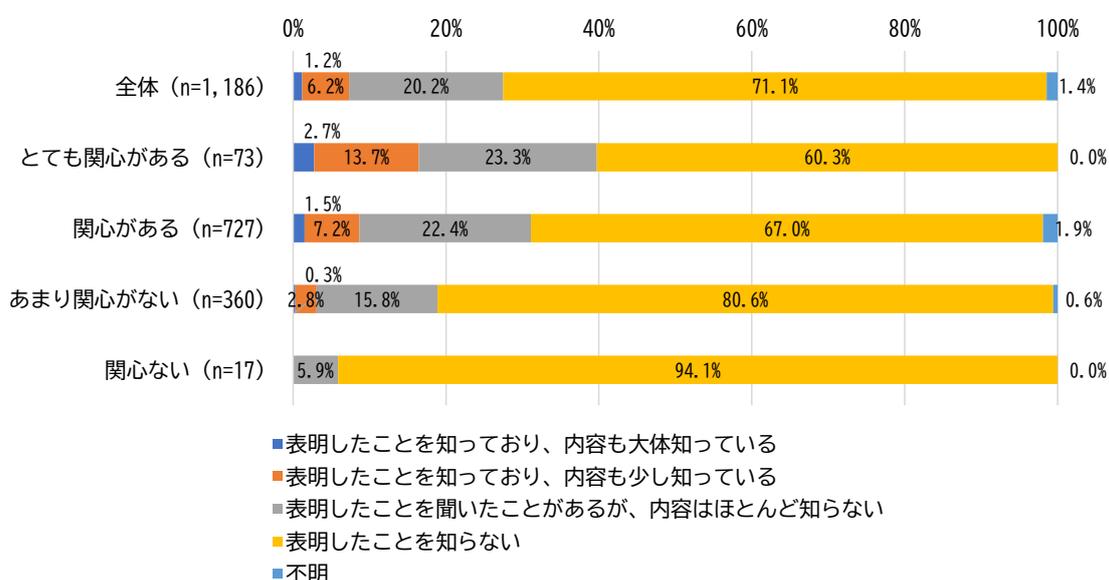
P.4で環境問題に「とても関心がある」と回答した方(6.2%)でも、第2次守谷市環境基本計画の認知度は半数以下となっています。



## ⑦ゼロカーボンシティの表明の認知度

守谷市が令和2年度にゼロカーボンシティを表明したことを知っているかを聞いたところ、「表明したことを知らない」が71.1%で最も多く、次に「表明したことを聞いたことがあるが、内容はほとんど知らない」が20.2%、「表明したことを知っており、内容も少し知っている」が6.2%となっています。

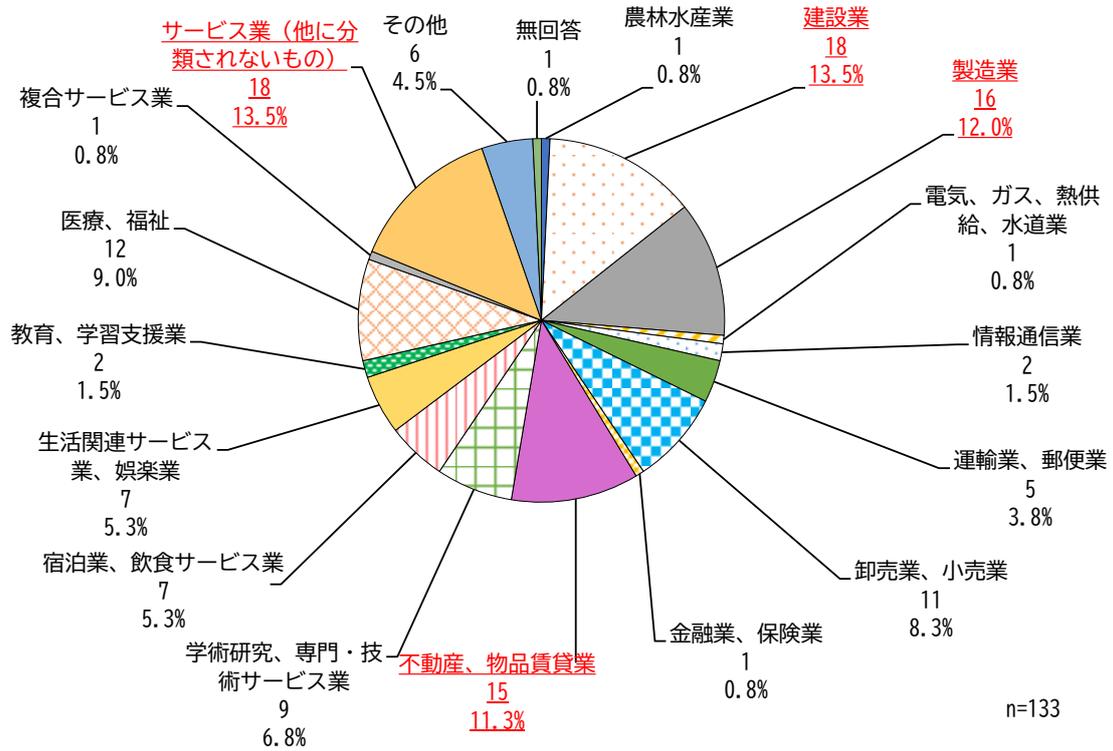
P.4で環境問題に「とても関心がある」と回答した方(6.2%)でも、ゼロカーボンシティの表明の認知度は4割程度となっています。前頁



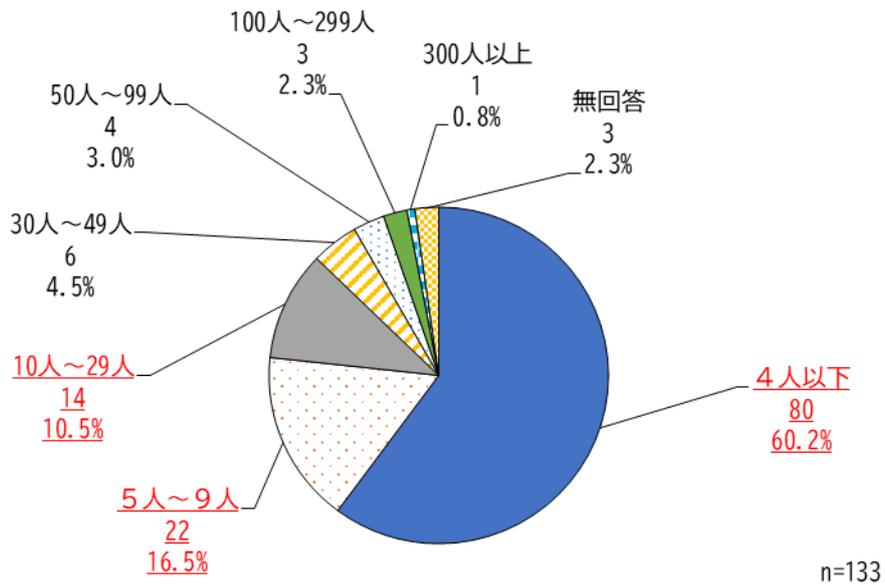
(2) 守谷市内の事業者（守谷市商工会に所属する企業）

①回答者の属性

a. 業種



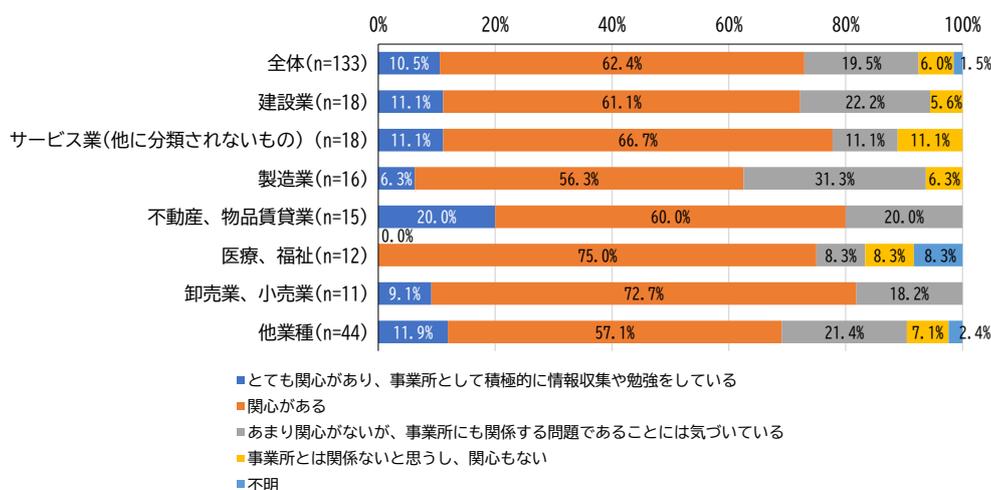
b. 従業員数



## ②環境問題の関心度

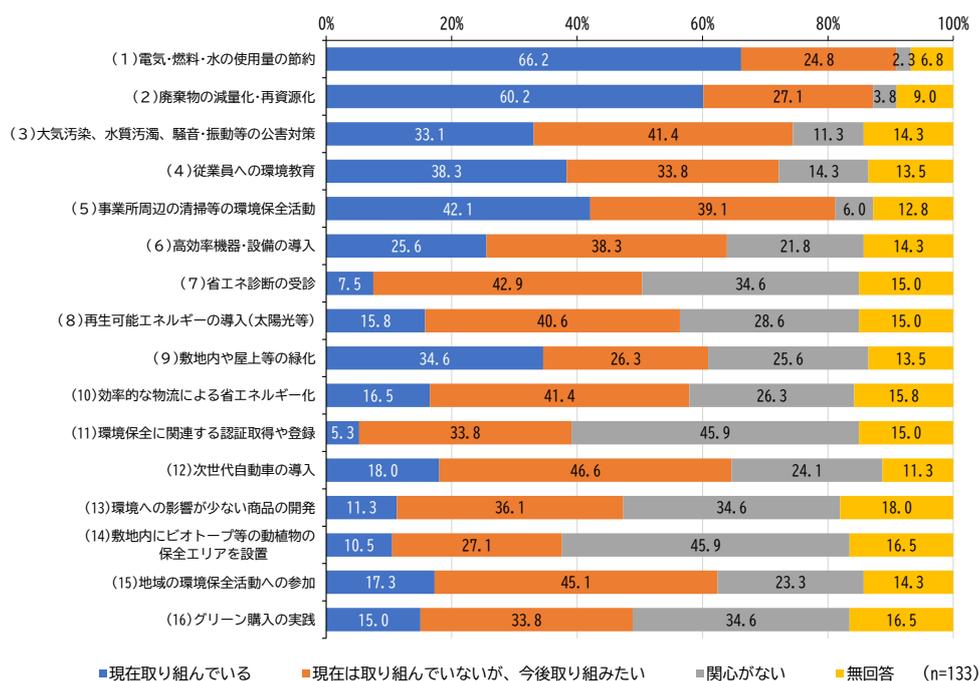
環境問題への関心度について、全体の傾向をみると「関心がある」が62.4%で最も多く、次に「あまり関心がないが、事業所にも関係する問題であることには気づいている」が19.5%、「とても関心があり、事業所として積極的に情報収集や勉強をしている」が10.5%となっています。

「とても関心がある」と「関心がある」を合計したものを『関心がある』としてみると、業種別では卸売業、小売業で81.8%が最も多くなっており、次いで不動産、物品賃貸業が80.0%、サービス業（他に分類されないもの）が77.8%となっています。どの業種においても半数以上が『関心がある』となっています。しかし、サービス業においては「事業所とは関係ないと思うし、関心もない」が11.1%となっており、他業種よりも環境問題への関心が低い傾向にあります。



## ③環境の保全や改善に向けた取組

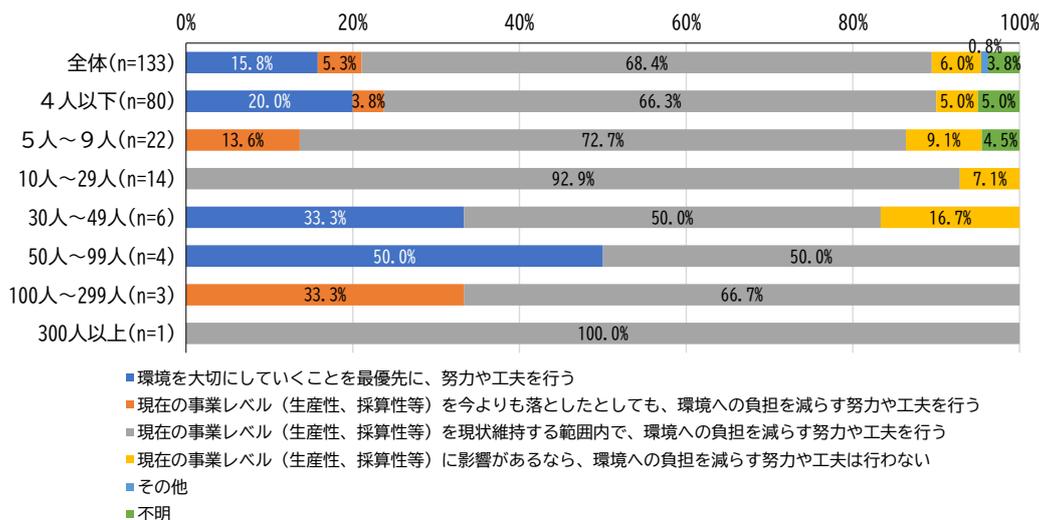
環境の保全や改善に向けた取組の取組状況を聞いたところ、現在取り組んでいることとして「電気・燃料・水の使用量の節約」、「廃棄物の減量化・再資源化」といった項目は、回答者の60%以上が「現在取り組んでいる」と回答しています。



#### ④環境への負担を減らすための努力や工夫

環境への負担を減らすために、事業の中で努力や工夫をどの程度することができるかを聞いたところ、「現在の事業レベル（生産性、採算性等）を現状維持する範囲内で、環境への負担を減らす努力や工夫を行う」が68.4%で最も多く、次に「環境を大切にしていけることを最優先に、努力や工夫を行う」が15.8%、「現在の事業レベル（生産性、採算性等）に影響があるなら、環境への負担を減らす努力や工夫は行わない」が6.0%となっています。

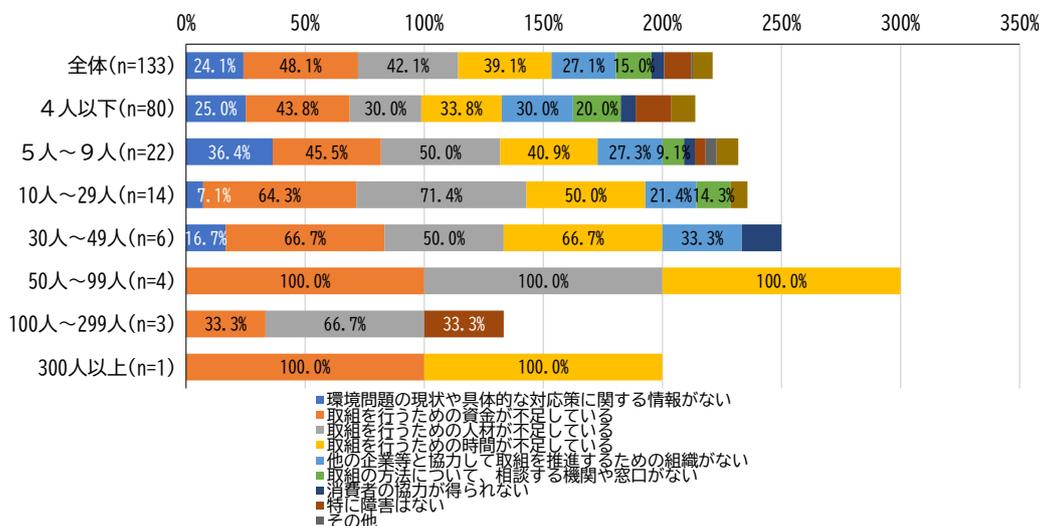
従業員数別にみると、どの分類においても「現在の事業レベル（生産性、採算性等）を現状維持する範囲内で、環境への負担を減らす努力や工夫を行う」が半数以上を占めています。



#### ⑤環境保全等の取組への障害

環境保全や改善に向けた取組への障害を聞いたところ、「取組を行うための資金が不足している」が48.1%で最も多く、次に「取組を行うための人材が不足している」が42.1%、「取組を行うための時間が不足している」が39.1%となっています。

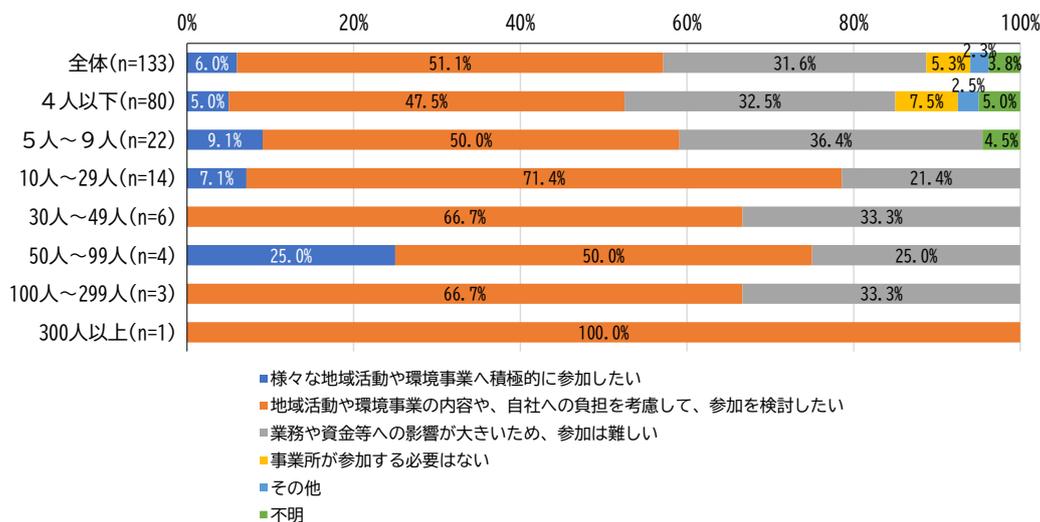
従業員数別にみると、どの分類においても資金不足、人材不足、時間不足が障害となっています。従業員数が少ないと「環境問題の現状や具体的な対応策に関する情報がない」、「他の企業等と協力して取組を推進するための組織がない」という回答割合が高くなる傾向があります。



## ⑥地域活動や環境事業への参加

守谷市の環境を良くするために地域活動や環境事業への参加について聞いたところ、「地域活動や環境事業の内容や、自社への負担を考慮して、参加を検討したい」が51.1%で最も多く、次に「業務や資金等への影響が大きいいため、参加は難しい」が31.6%、「様々な地域活動や環境事業へ積極的に参加したい」が6.0%となっています。

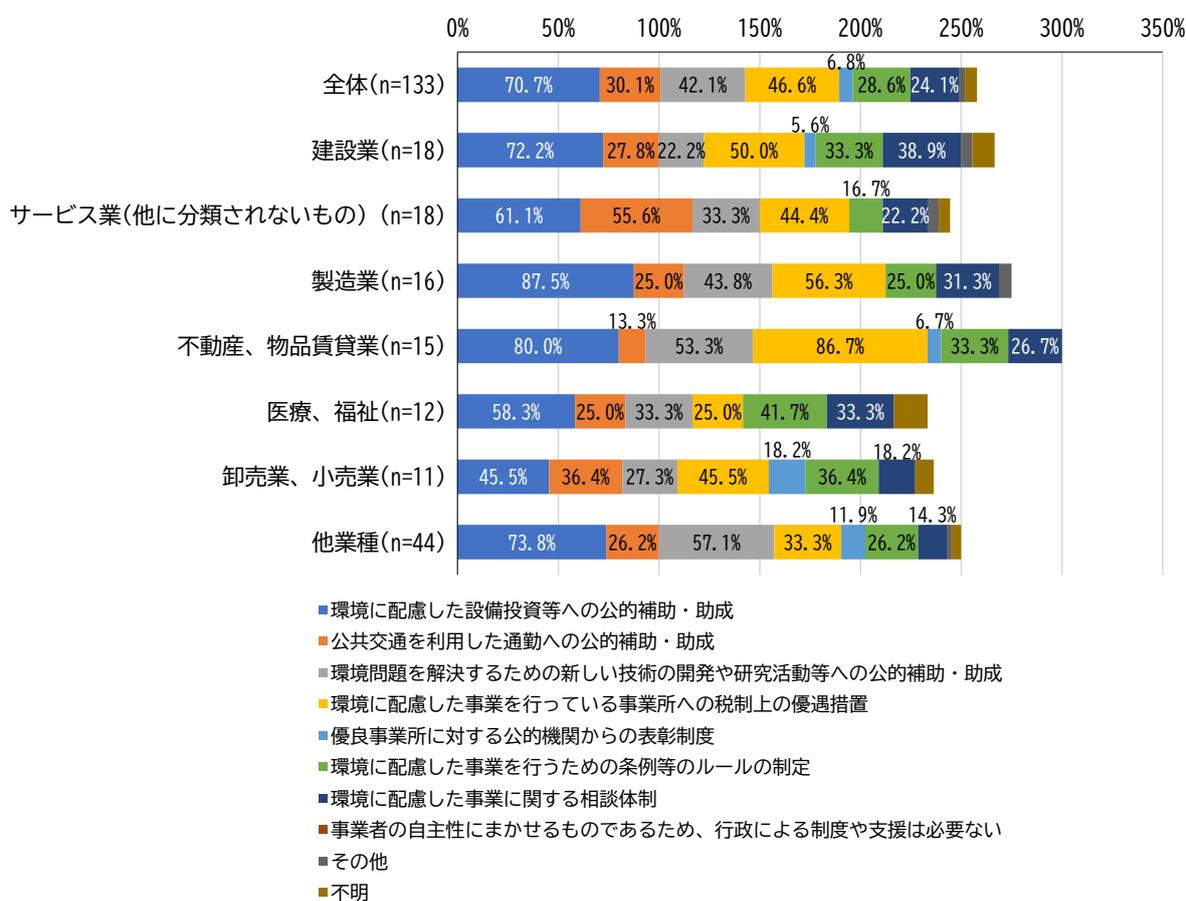
従業員数別にみると、地域活動や環境事業への参加は従業員が多くなるにしたがって、参加意欲が高くなる傾向にあります。



### ⑦重要だと思う制度や支援

守谷市内で環境に配慮した事業を行っていくにあたり、重要だと思う制度や支援はどのようなことかを聞いたところ、「環境に配慮した設備投資等への公的補助・助成」が70.7%で最も多く、次に「環境に配慮した事業を行っている事業所への税制上の優遇措置」が46.6%、「環境問題を解決するための新しい技術の開発や研究活動等への公的補助・助成」が42.1%となっています。

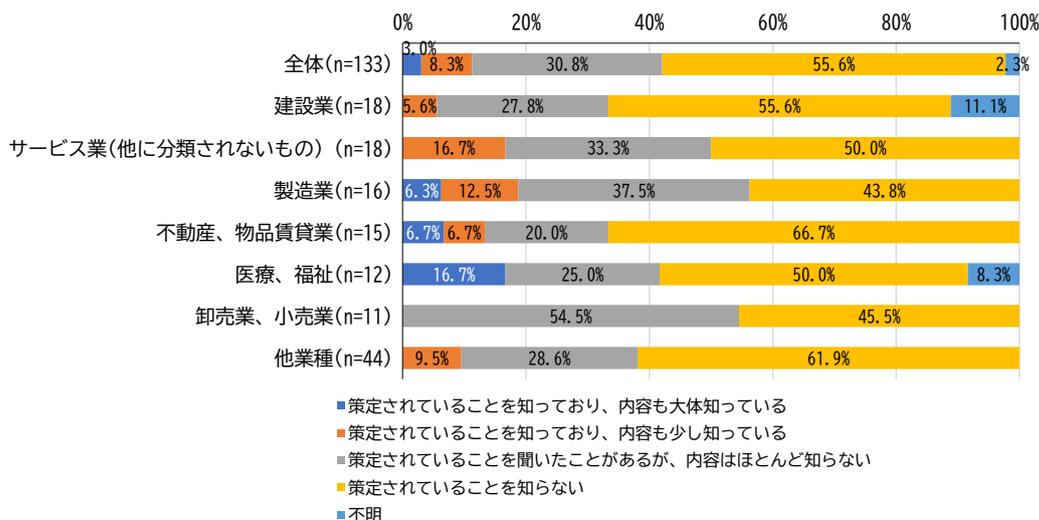
事業種別にみると、建設業では「環境に配慮した事業に関する相談体制」、サービス業では「公共交通を利用した通勤への公的補助・助成」、製造業では「環境に配慮した設備投資等への公的補助・助成」、不動産、物品賃貸業では「環境に配慮した事業を行っている事業所への税制上の優遇措置」、医療、福祉では「環境に配慮した事業を行うための条例等のルール制定」、卸売業、小売業では「優良事業所に対する公的機関からの表彰制度」が全体と比較して高くなっています。



### ⑧第2次守谷市環境基本計画の認知度

第2次守谷市環境基本計画の認知度は、全体では「策定されていることを知らない」が55.6%で最も多く、次に「策定されていることを聞いたことがあるが、内容はほとんど知らない」が30.8%、「策定されていることを知っており、内容も少し知っている」が8.3%となっています。

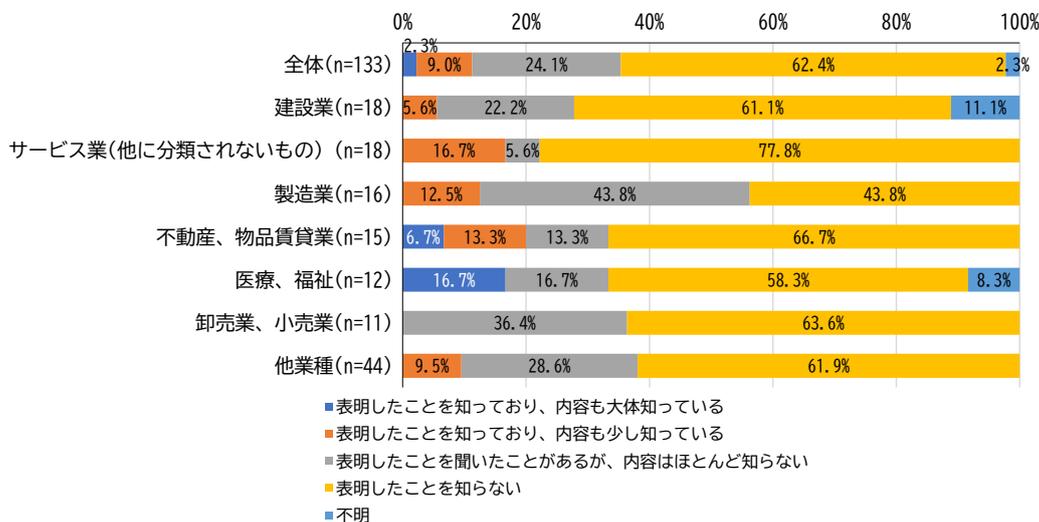
業種別にみると、製造業・不動産、物品賃貸業・医療、福祉で「策定されていることを知っており、内容も大体知っている」と回答していますが、多くの業種で「策定されていることを知らない」、「策定されていることを聞いたことがあるが、内容はほとんど知らない」と回答しています。



### ⑨ゼロカーボンシティの表明の認知度

ゼロカーボンシティの表明の認知度は、全体では「表明したことを知らない」が62.4%で最も多く、次に「表明したことを聞いたことがあるが、内容はほとんど知らない」が24.1%、「表明したことを知っており、内容も少し知っている」が9.0%となっています。

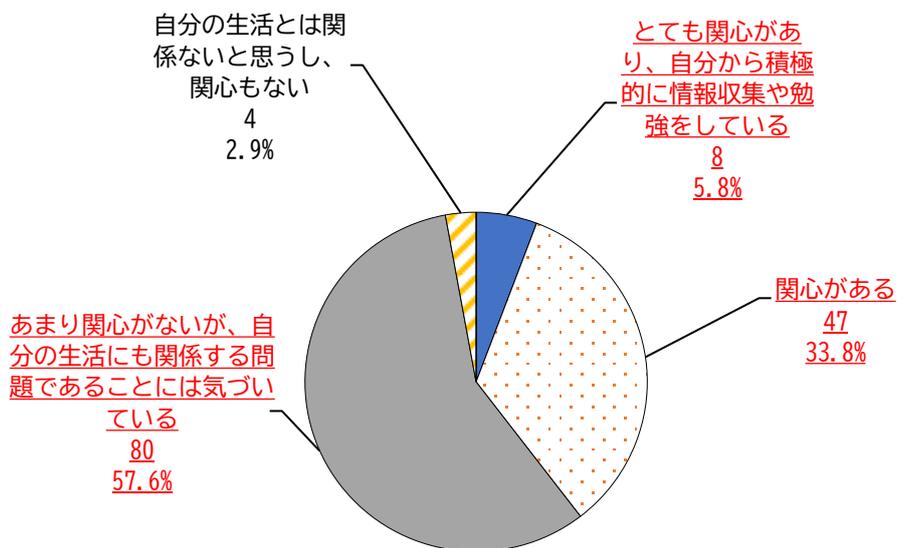
業種別にみると、不動産、物品賃貸業及び医療、福祉で「表明したことを知っており、内容も大体知っている」と回答していますが、多くの業種で「表明したことを聞いたことがあるが、内容はほとんど知らない」、「表明したことを知らない」と回答しており、第2次守谷市環境基本計画の認知度よりも低くなっている傾向があります。



(3) 守谷市内の中学生（市内の4中学校、2年生の1クラス）

①環境問題の関心度

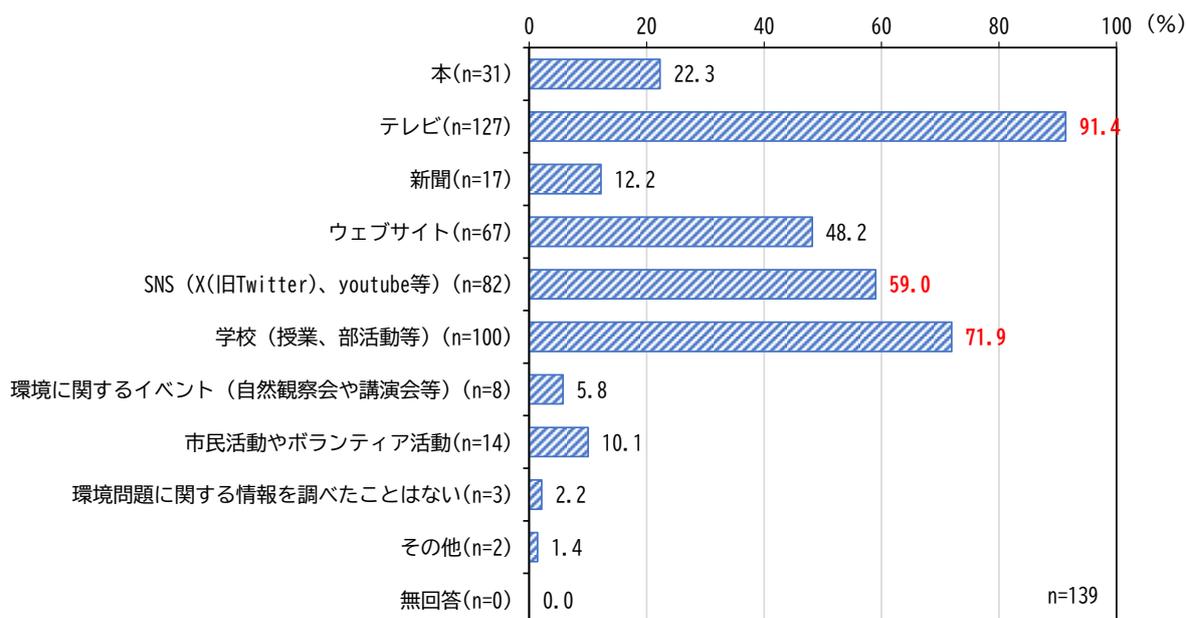
環境問題に関心があるかを聞いたところ、「あまり関心がないが、自分の生活にも関係する問題であることには気づいている」が57.6%で最も多く、次に「関心がある」が33.8%、「とても関心があり、自分から積極的に情報収集や勉強をしている」が5.8%となっています。



n=139

②環境問題の情報を得る方法

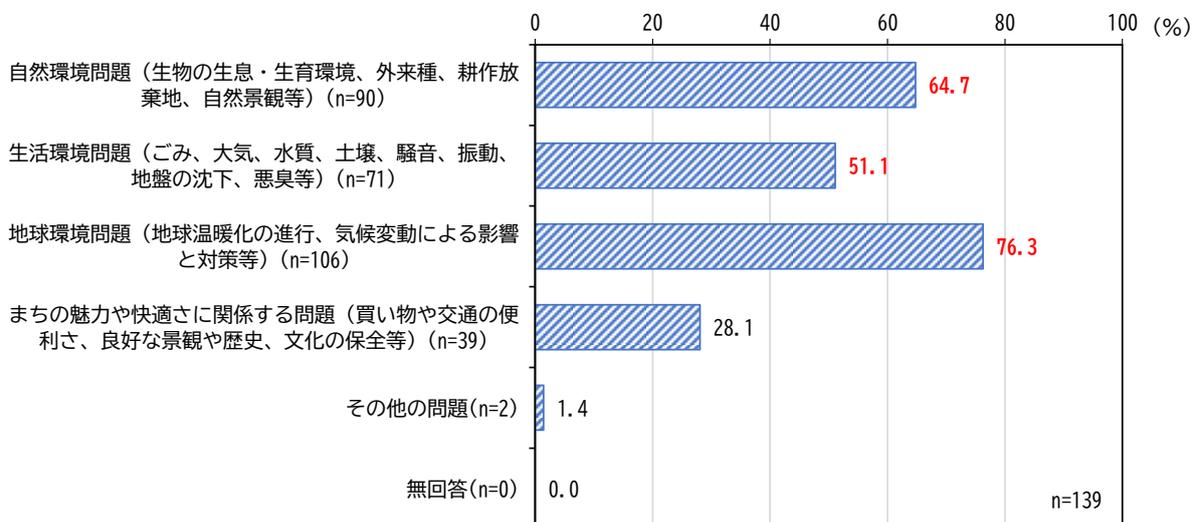
環境問題に関する情報をどのような方法で得ているかを聞いたところ、「テレビ」が91.4%で最も多く、次に「学校（授業、部活動等）」が71.9%、「SNS（X(旧Twitter)、YouTube等）」が59.0%となっています。



n=139

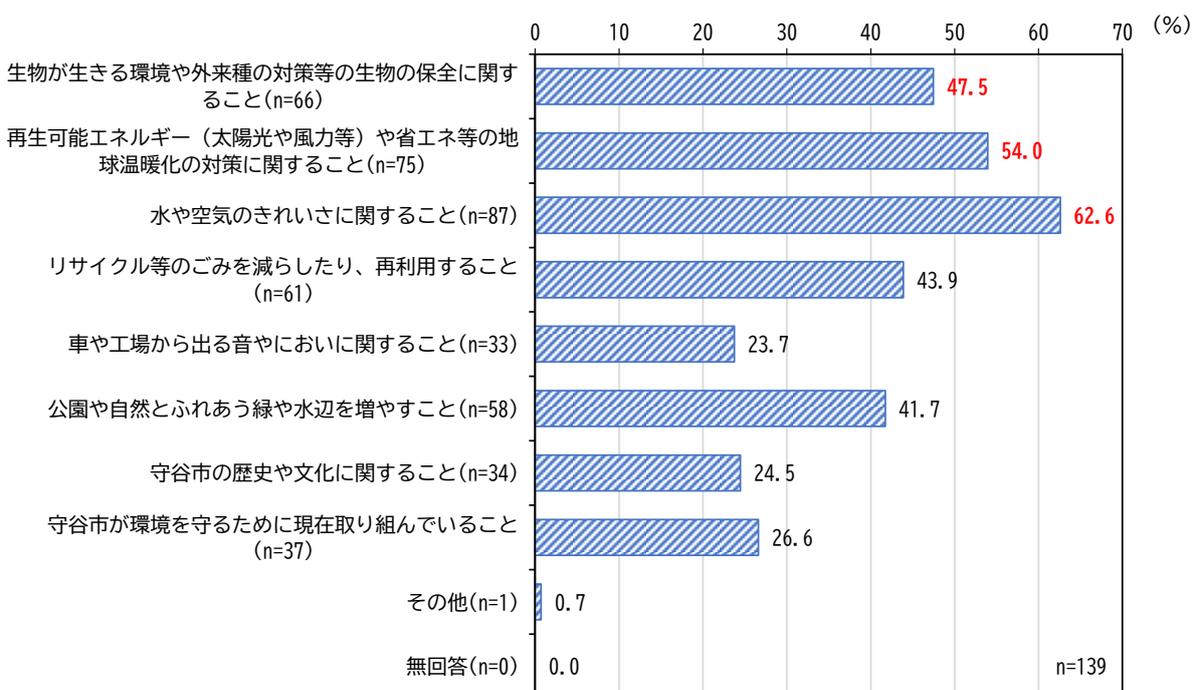
### ③関心のある環境問題

どのような環境問題に関心があるかを聞いたところ、「地球環境問題（地球温暖化の進行、気候変動による影響と対策等）」が76.3%で最も多く、次に「自然環境問題（生物の生息・生育環境、外来種、耕作放棄地、自然景観等）」が64.7%、「生活環境問題（ごみ、大気、水質、土壌、騒音、振動、地盤の沈下、悪臭等）」が51.1%、「生活環境問題（ごみ、大気、水質、土壌、騒音、振動、地盤の沈下、悪臭等）」が51.1%となっています。



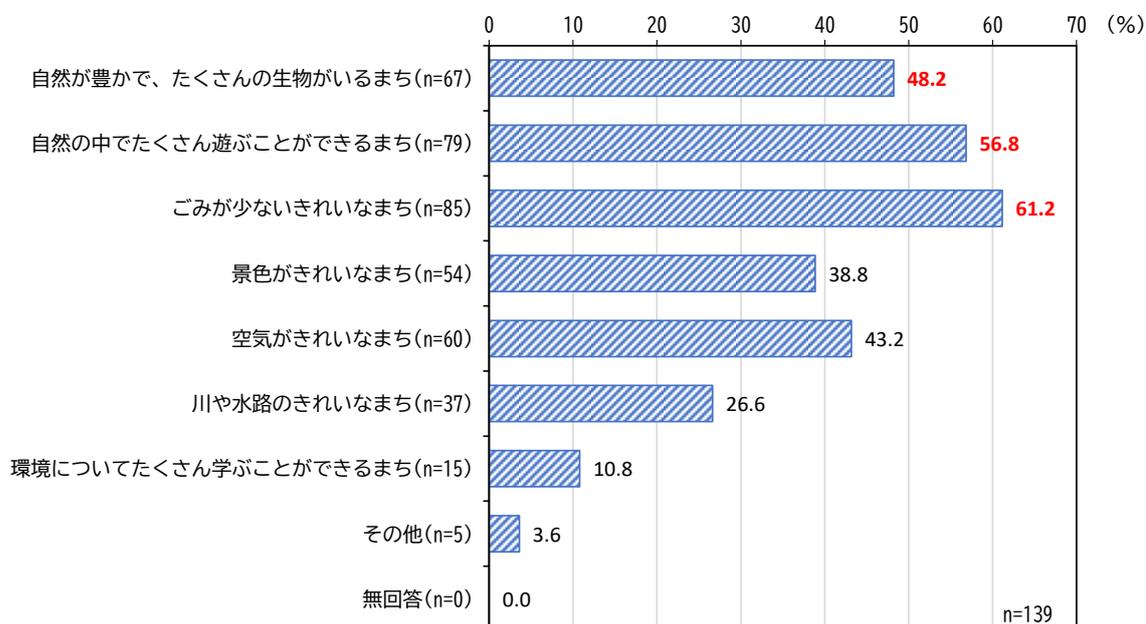
### ④学びたい環境項目

環境について知りたい学びたい内容を聞いたところ、「水や空気のきれいさに関すること」が62.6%で最も多く、次に「再生可能エネルギー（太陽光や風力等）や省エネ等の地球温暖化の対策に関すること」が54.0%、「生物が生きる環境や外来種の対策等の生物の保全に関すること」が47.5%となっています。



### ⑤将来のまちの姿

将来どのようなまちになると良いかを聞いたところ、「ごみが少ないきれいなまち」が61.2%で最も多く、次に「自然の中でたくさん遊ぶことができるまち」が56.8%、「自然が豊かで、たくさんの生物がいるまち」が48.2%となっています。



### ⑥学校での取組内容

環境保全・改善を進めるために、学校ではどのようなことに取り組んだら良いか聞いたところ、「学校全体で無駄な電気や水を使わないようにする」が57.6%で最も多く、次に、「学校全体でごみの減量や再利用、分別等を行う」が56.1%、「学校内に雨水をためる施設や太陽光発電システム等の環境にやさしい施設を整備する」が50.4%となっています。

